

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

2013年 クリスマス募金による活動報告書

World Vision

この子を救う。未来を救う。

■募金件数:11,926件 ■募金額:95,768,851円 ■募金期間:2013年10月1日～2014年4月24日現在

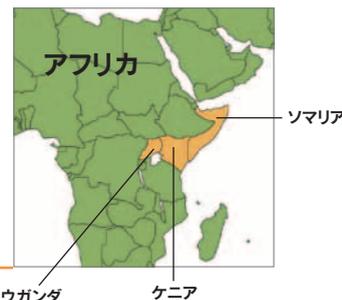
皆さまからいただきましたクリスマス募金(クリスマス食糧支援募金含む)により、アフリカやアジアで、食糧や水の不足により健やかな成長が阻まれている子どもたちや人々の支援を行うことができました。感謝とともに、報告させていただきます。

アフリカの子どもたちのために

ソマリア

支援地域の状況

ソマリアはアフリカ東部に位置する、海岸線に沿った細長い国です。人々の多くが農業、畜産業で生計を立てており、近年の異常気象の影響で、慢性的な食糧不足に陥っています。5歳未満の子どもの42%が栄養不良となっています。



ワールド・ビジョン・ジャパンの活動

・支援地域：ソマリランドとプントランド

・支援対象：5歳未満の子どもたちと妊産婦、授乳中の女性、毎月約8,000人(プントランドで2013年6月から2014年11月まで毎月約6,000人、ソマリランドで2013年4月から2014年8月まで毎月約2,000人)

国連食糧計画(WFP)と協力して、栄養不良にある子どもや女性を対象に次のような支援を行いました。

- ①生後6カ月以上5歳未満で、栄養状態が悪い子どもに栄養価の高い食糧を支援しました。とくに状況が深刻な子どもは、医療機関で治療が受けられるよう紹介などのサポートを行いました。
- ②妊産婦の栄養状態の改善と安全な出産のために、地域の母子保健センターで、栄養価の高い食糧を支援しました。出産後も、乳幼児が6カ月になるまで継続的に食糧支援を行いました。

ウガンダ

支援地域の状況

北西部のカラムोजヤ地区では、洪水や干ばつなどの異常気象により、農業や畜産業を営む多くの人々が深刻な打撃を受けました。約80%の人々とくに5歳未満の子どもたちが食糧不足から栄養不良に陥っています。

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動

・支援地域：カラムोजヤ地区

・支援対象：労働が可能な人、約41,000人。労働参加が難しい人、約62,000人

直接的な食糧支援だけでなく、持続的な食糧生産力の拡大のために、次のような支援を行いました。

- ①いつでも必要な水を供給できるように、簡易なダムや貯水池の建設。
- ②大量の雨による土壌の浸食を防ぐための植林活動。
- ③農業の収穫量を増やすために、土地の開墾方法や収穫方法、収穫後の土地の扱い、害虫被害の予防などについての研修を人々へ実施。穀物や豆類の種子の配布による、研修の実践。

労働可能な約41,000人が作業に参加し、その報酬として穀物や豆、食用油などの食料を配布しました。高齢者や母子家庭など労働に参加することがむずかしい世帯の約62,000人に対しても食糧を配布しました。



ソマリランドのバキ地区で暮らす、ドリサクくん(中央)と、お母さんと兄。家族は、干ばつによって家畜を全部失くしたために、収入の手段が絶たれ、食料の入手ができなくなりました。一度は深刻な栄養失調に陥ったドリサクくんですが、ワールド・ビジョンの支援により、標準に近い栄養状態に戻ることができました。「ドリサクの命を救ってくれたワールド・ビジョンに感謝しています。息子には将来、学校の先生になってほしい」とお母さんは言います。

ケニア

支援地域の状況

60年に一度と言われた2011年の厳しい干ばつの影響が今でも続き、農作物の生産や、家畜による収入に支障をきたしました。また、木炭生産による森林伐採が土壌の悪化をもたらし、耕作地を減少させ、人々は食糧不足に陥りました。

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動

・支援地域：コースト州キリフィ県およびタイタ・タベタ県

・支援対象：約103,900人

次の3つの支援を実施しました。

- ①家畜のえさの調達が困難な畜産家のために、えさの持続的な獲得のためのサイロ（牧草を詰めて飼料を作るための貯蔵庫）の設置。
- ②水を確保するために、雨水を集めて保存する装置の設置。水汲みの時間を勉強に当てることができるようになり子どもたちの就学率が13%向上しました。
- ③土壌の悪化した耕作地の改善による、牧草や農業生産の向上。木々が土地に与える影響について住民に啓発を行い、植林とともに木の種を配布しました。

またこれらの活動や作業に携わった人々に、食糧や他の必要を満たすための現金による報酬を提供しました。

・支援地域：リフトバレー州および東部州

・支援対象：約75,600人

畜産と農業を営む人々のための収入向上支援と、生活用水や家畜の水の確保のための支援を行いました。

- ①牧草地を増やし家畜による収入を向上させるために、洪水などで農地として利用できなくなった土地を再び開墾し、土地の浸食や土の流出を防ぐ堰堤を造りました。
- ②年間を通じて安定した収穫による農業生産の向上のために、灌がい設備や雨水を集める装置の設置、また、ソルガム、ササゲ、緑豆、キビなど収穫時期の異なる作物の種を配布しました。
- ③作物を売るための市場への交通を良くするため、新しい道路を建設しました。

これらの作業（労働）に参加した人々に、その報酬として穀物や豆、塩などの食糧を配布し、目の前の食糧不足を解消するとともに持続的な生産量向上の足場を作りました。また、高齢者や母子家庭など労働への参加が困難な世帯に対して食糧を配布しました。

・支援地域：カクマ難民キャンプ

・支援対象：約95,000人

92年設立のカクマ難民キャンプは、近隣のスーダン、ソマリア、エチオピアなどから内戦や迫害を逃れてきた153,000人以上の難民を収容してきました。生計活動が許可されていないキャンプでは、難民は生きるために人道支援に頼らざるを得ません。当初45,360人の難民に食糧支援を実施していましたが、2013年12月以降、南スーダンで勃発・拡大した紛争から大量の難民がこのキャンプに逃れてきたため、南スーダン難民を含む約95,000人まで対象を拡大し、毎月約1,200トンの食糧配布を行いました。

担当、平井スタッフ

アフリカ各地では、不安定な気候が続いています。このため、作物が十分に育たず、食糧不足の原因となっています。ワールド・ビジョンは、食糧の配布だけではなく、異常気象や水害などの災害に対処するために、何が必要であるか人々とともに考え、簡易ダムや灌がい設備の整備など、災害への抵抗力を高めることを目的とした支援を実施してきました。皆さまの支援が、今後も予想される異常気象に負けない地域づくりの力になっています。



キリフィ県で暮らす12歳の女の子テレジアちゃん。お母さんのエスターさんは、ワールド・ビジョンの支援活動に参加することで現金を報酬として受け取り、家畜を増やすことができました。以前はヤギが3頭だけでしたが、投資してさらに3頭増やし、その後ヤギが子どもを産み9頭まで増えました。

ヤギの乳がテレジアちゃんを含め8人の子どもたちの十分な栄養になっただけでなく、余剰を売ることも可能になりました。「さらに重要なこと」は（とエスターさんは言います）、子どもたちの教育費を捻出できるようになったことです。今では子どもたちの健康状態は良好で、学校の成績も著しく向上しました。ヤギを抱いて喜ぶテレジアちゃんの写真で、その幸せをご確認ください。

<http://www.worldvision.jp>

ワールド・ビジョンは、キリスト教精神に基づいて開発援助、緊急人道支援、アドボカシー（政府や市民への働きかけ）を行う国際NGOです

アジアの子どもたちのために

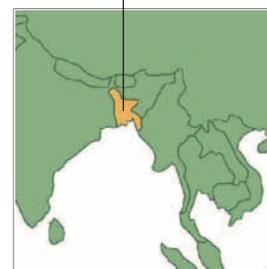
バングラデシュ

支援地域の状況

バングラデシュは近年著しい経済発展を遂げていますが、40%の人々が安定的に十分な食糧を得ることができていません。とくに貧困家庭の子どもの栄養不良は深刻です。また、女性の妊娠時の栄養不足も、新生児の低体重や、高い死亡率、成長の遅れの原因となっています。

母子保健サービスも不十分で、検診などのサービスを受ける妊婦は26%、専門家の介助で出産する女性も32%に過ぎず、乳幼児期の育て方とくに栄養ある食事の普及に支障を来し、生後6カ月から23カ月の子どもの21%が適切な食事を与えられていません。

バングラデシュ



ワールド・ビジョン・ジャパンの活動

・支援地域：マイメイシ、ラッシャヒ、ロングプール各地域内の合計20郡

・支援対象：602,510人

子どもや女性の栄養不良の解決のため、短期的な食事の提供だけでなく、人々の生活習慣の改善、収入向上、正しい知識の普及、公的機関との協力関係の強化といった広範囲で根本的な問題解決により、次のような持続的な改善に取り組んでいます。

- ①妊産婦や若い女性に対し、健康や衛生、母子保健に関する啓発や研修を行う。
- ②生後6カ月から23カ月の子どもをもつ女性に対し、栄養に関する研修とともに、現地で入手可能な食材を用いた調理実習を行う。
- ③子どもの栄養改善に関するリーダーを育成し、学んだことが地域で普及されるようにする。
- ④人々と、地域政府や公的機関との関係を改善し、必要な公的サービスや情報が届くようにする。
- ⑤農業や畜産の振興を通して人々の収入向上を促進し、必要な食糧確保ができることを目指す。
- ⑥必要に応じて栄養補助食品なども配布する。



母子の健康についての説明をする専門家

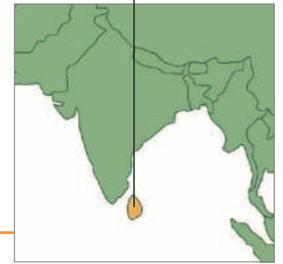
支援活動の本格的な実施に先立ち、活動対象地域の子どもの栄養状態について調査し、年齢層ごとの栄養状態、対象となる子どもたちの人数を把握しました。また、ワールド・ビジョンスタッフとともに活動を実際に行う栄養改善促進員を、300世帯に一人ずつ選定し、促進員は、実際の栄養改善の方法や、栄養価の高い食事の調理方法などを実践していくために、12日間連続の集中的な研修を受けました。さらに、郡レベルの保健局や郡病院、農業局などとの情報交換や具体的な活動への協力など、今後のプロジェクト活動を進めていく上での密接な関係構築を進めています。

乳幼児の子どもを持つお母さんが、専門家の指導のもと、現地で入手可能な食材を用いて調理実習を行いました



担当、今西スタッフ

子どもの栄養不良の問題はバングラデシュでも緊急の問題です。その根本的な解決のためには、単に食料の不足を補ったり栄養素の補填をするだけでは不十分です。母親や将来母親となる女性たちも対象にし、公的機関との連携をしながら、食料の生産増強や経済的な面での支援も必要とされます。そういった意味で、この事業は栄養不良の問題に包括的かつ広範囲に取りくむ画期的な事業です。ご支援者の皆さんの継続的な支援をお願いします。



スリランカ

支援地域の状況

2012年9月までに約47万人以上の人々が避難先から帰還しましたが、人々は財産をほとんど失い、家も道路も学校も破壊されていました。田畑も荒れ果て、家畜も失ったために、多くの帰還民が安定した生計を立てられず、困窮した状態に置かれました。

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動

- ・支援地域：スリランカ国北部州キリノッチ県
- ・支援対象：内戦後、帰還して家畜で生計を立てようとしている家族、内戦の影響により厳しい貧困にある酪農家、6,000世帯予定（内戦で男性の働き手を失った家庭や、小さな子ども、寡婦、障がい者や高齢者のいる家庭など、社会的に立場の弱い人々を多く含みます）

人々は、家畜で生計を立てようにも、専門家や獣医の数が不十分なために、家畜の人工授精や病気の治療も適切に行うことができません。また、牛や鶏などの家畜をふやす知識や技術も不足しているため、生産性をあげることが困難です。

これらの人々の畜産による収入向上を目的に、2013年11月に事業を開始し、皆さまからのクリスマス募金とJICA（政府ODAの実施機関）の助成を役立たせていただいております。また地域で手に入りやすかった鶏卵や牛乳などが、地元で生産され流通するようになることで、子どもたちの栄養改善につながることも期待されます。

本格的な活動はこれからで、今は継続的に活動を続けられる仕組み作りを行っています。まず、実際の活動の柱となる30名の普及員を養成しました。普及員は、地域発展に尽くしたいという熱意を持った住民から選ばれ、地方政府の家畜生産衛生局、家畜生産者組合と協力しながら、家畜の病気予防のためのワクチン接種や人工授精など、家畜の飼育と繁殖に必要な基本的サービスの人々に提供します。

選ばれた普及員は、2カ月間の技術研修を受け、4月11日に修了式を迎えました。研修では人工授精やワクチン接種などの実習、有機肥料や栄養豊富な飼料の作り方、家畜の病気の見分け方や予防法などを学びました。その他、リーダーシップ、公衆衛生や牛乳加工の技術、畜産農家向けの銀行ローンや保険についてなど、幅広く学びました。



牛の人工授精の野外実習を行う普及員

普及員のコメント



カビルラジさん

30名の普及員の一人、カビルラジさんは最年少の19歳。以前、一家は3頭の牛を飼っていましたが、内戦で全て失いました。高等教育を受ける機会も奪われ、普及員に選ばれる前には日雇労働をして、わずかな収入を得ていました。

「以前は専門的な勉強など、自分には縁がないし、とても理解できないと思っていました。でも研修はとても楽しく、多くのことを学び、技術を身に付けることができました。これから普及員として働くのが楽しみです」

実習では講師が感心するほど熱心に取り組み、3時間に及ぶ最終試験では100点満点中92点という高得点を挙げ、普及員として働く自信もつきました。

担当、岡崎スタッフ

普及員の研修は炎天下の農場で長時間の実習を行ったり、暴れる牛にワクチンを打ったり、決して楽なものではありませんでしたが、皆、驚くほどの熱心さで研修に取り組みました。彼らの多くは、長期に亘った内戦のために避難生活を強いられ、教育を受ける機会も奪われてきた青年たちです。彼らの働きによって、社会的に立場の弱い世帯を多く含む畜産農家が、収入を向上させ、子どもたちを健全に育てることができ、彼ら自身も仕事に誇りを持ち、人々に貢献する新たなヒーローとして活躍し、輝いてほしいと願っています。

スリランカの人々の前で話をする岡崎スタッフ



※クリスマス募金（クリスマス食糧支援募金含む）は、一部を上記以外の活動にも用いさせていただきました。

- 募金についての問い合わせ先 特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン
〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー3F
TEL:03-5334-5351 FAX:03-5334-5359 Email:dservice@worldvision.or.jp